

●事例紹介●

就職支援からキャリア形成支援へ ～広島大学学生就職センターの歩み～

松水 征夫

(広島大学学生就職センター長)

一 学生就職センター設置の経緯

景気の長期低迷から厳しい就職事情になっており、また就職協定の廃止により就職戦線が早期化していることから、広島大学では平成一〇年五月一日に国立大では初めての就職支援組織として学生就職センターを学内措置で設置した。

センターの発足当初は、学内の運用定員で配置されたセンター専任の教授がセンター長に就任し、事務室長、事務補佐員の三名の体制であった。初代のセンター長が一年で定年退官されたため、平成一一年四月には、筆者が併任の

センター長に就任し、新たなセンター専任教授がセンター主任として着任するとともに、学内運用定員でセンターの情報化要員として助手の配置が認められ、五名体制になった。さらに、平成一二年四月には、筑波大学とともに国立大学では初めての就職課の設置が認められ、事務組織の集中化により、就職課に配置された事務官一名がセンターに配置になり、現行の七名の就職支援体制が完成した。

学生就職センターは、これまで十分に行われていなかった大学としての就職支援のコントロールタワー的役割が期待され、学内の各部署との連携により就職率の向上を目指したが、折からの景気低迷の影響もあって就職率が伸び悩んでいた。しかしながらセンター発足以来の地道な就職支

援がやっと実を結び、平成一四年度は初めて就職率が大幅に改善した。来年から国立大学が法人化される中で、センタ―の抱える課題も多く、これまでの歩みを振り返りながら、これから進むべき方向について検討してみたい。

二 センタ―の就職支援活動

学生の就職活動を支援するセンタ―の主要な事業活動については、本誌（平成一二年五月号、第四二四号）の特集「就職」においてすでに紹介されているところであるが、本センタ―が独自に取り組んできた特徴的な活動について、その後の展開を含めて紹介しよう。

①職業意識啓発講義の開講

センタ―専任教授により、センタ―発足以来、学生の職業意識を啓発するための講義が教養的教育科目（前期・後期各二単位）として開講されている。授業科目名は、平成一〇年度には「グローバル時代の日本経済―職業選択の視点から―」であったが、平成一三年度からは「職業選択と自己実現」と名称変更された。履修年次も、平成一〇年度は三年次生以上を対象としていたが、就職活動の早期化に対応するため、平成一二年度から二年次生以上を対象と変

更した。いずれも、キャリア教育を充実する必要性を意識して改められたものである。本講義の受講者数も、次頁の表の通り、平成一〇年度の九四名から平成一四年度には三五名と三倍半に増えている。

②就職相談の実施

企業の選考方法が多様化・厳選化し、さまざまな就職相談が必要になっている状況に鑑み、センタ―の発足以来、センタ―のスタッフに加えて、民間企業において採用担当経験のある企業OB三名を「相談員」に委嘱している。職務として、エントリーシートの書き方や面接の受け方の指導だけでなく、相談来訪者一人あたり一時間をかけて大学での学習歴・経験歴を活かす進路・就職について助言するキャリアカウンセリングも行っている。就職相談件数も、次頁の表の通り、平成一〇年度の二〇五件から平成一四年度には六六二件と約三倍に増加している。

③就職ガイダンスの開催

就職戦線の早期化に対応するため、二年次の六月以降、就職活動の進め方、自己分析の仕方、業界研究・企業研究・職種研究の仕方、エントリーシートの書き方、面接の受け方といった就職活動のスケジュールに沿った基本的・実践的な就職ガイダンスを開催している。就職戦線がスタ

特集・学生のキャリア形成

表 学生就職センターの活動・利用状況の推移

	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
職業意識啓発講義受講者数(人)					
前期	41	32	114	214	225
後期	53	51	86	150	110
合計	94	83	200	364	335
就職相談件数	205	429	565	592	662
就職ガイダンス開催回数					
基本ガイダンス	14	21	16	16	17
公務員ガイダンス	9	14	13	11	10
先輩体験談講演	7	10	18	14	11
業界・企業セミナー	20	30	43	52	83
合計	50	75	90	93	121
求人件数(センター受付社数)	765	975	1,214	1,513	1,556

ートする直前には、首都圏・関西圏の企業に協力していた
だき、業界セミナーや会社セミナーを学内で開催していた
だいている。就職ガイダンスの開催回数も、左記の表の通

り、平成一〇年度の五〇回から平成一四年度には一二一回
と約二倍半に膨らんでいる。

④就職情報の提供

センターで受け取った企業等からの求人情報をネット上
で公開するための就職支援システムを、センターの発足と
同時に稼働させていたが、平成一一年七月にはセンター独
自のホームページを立ち上げ、学生に有用な就職情報の提
供を始めた。平成一四年一〇月からは学生生活に関する情
報のデータオンライン化システム(通称「もみじ」)が開
発され、求人情報の提供は従来のシステムから切り替えら
れた。センターが受け付けた求人件数は、上記の表の通り、
平成一〇年度の七六五社から平成一四年度の一、五五六社
と二倍に増加しているが、今後、「もみじ」を利用した全
学的な求人情報の入力に切り替えられ、さらに充実したも
のになることが期待される。

ところで、「もみじ」は、求人情報の提供だけでなく、
進路希望、就職活動(活動体験を含む)の状況、内定状況、
最終的な進路決定などを学生に随時入力させ、学生の就職
活動の状況を的確に把握し、きめの細かい就職指導に活用
することができるように開発されたものである。

三 学内外の組織と連携した就職支援活動

センターで独自にできる支援には限界があるため、センター発足以来、学内外のいろいろな組織と連携して学生の就職活動を支援する各種サービスの拡充に努めてきた。

① 評議員等による企業訪問の実施

本学では平成九年度から毎年、評議員等の教官に学生の採用企業を各部署一〇社程度訪問していただき、採用御礼の挨拶をするとともに、市場開拓のための情報収集をお願いしている。各教官には、企業訪問により実感した企業環境の変化を、教育や就職面での個別指導に反映させていただくことを期待している。

② 広島大学同窓会との連携

工学部卒業生の同窓会（広島工業会）が平成一一年度から毎年、工学部卒業生の採用企業に参加を呼びかけて、学内で合同企業説明会を開催しているが、センターはこの企業説明会を後援し、協力している。また広島大学を卒業して関西地区の企業に就職しているOB・OGが平成一一年度に広島大学関西地区就職応援団（関西地区在住の会員は二〇〇名を超える。）を結成して、後輩たちの

就職活動を支援している。平成一三年度から開始した「社会で働く先輩との懇談会」では、関西地区に本社のある有力企業に参加を呼びかけて企業説明会を開催しているが、センターも積極的に協力して多くの学生に企業の実情を理解させるのに役立つ就職セミナーとして定着している。

③ 広島大学消費生活協同組合との連携

本学の生協は、センターの設置前から、学生の就職を支援するために、学外の各種資格取得講座の受付の窓口を務めていたが、センターの後援のもとに平成一一年度から独自に校章入りの履歴書を作成、平成一二年度から学内で公務員試験対策講座の開設、また学生の企業理解を進めるために、地元企業をバスで訪問する「企業見学ツアー」を企画し、学生の好評を得ている。

④ 広島県との連携

学生が首都圏や関西圏で就職活動をするときに、インターネットでセミナーの情報や自分宛の企業からのメールなどを確認したいときに利用できる活動拠点を確保する必要性が切望されていた。このため、広島県にお願いして、広島県の東京情報センター（JR新宿駅南口近辺）及び大阪情報センター（JR大阪駅近辺）内の「ふるさと就職情報

コーナー」を平成一一年二月より利用させていただいている。

⑤中国地域インターンシップ推進協議会との連携

本学におけるインターンシップは、中国地域インターンシップ推進協議会の実施するインターンシップに学生を派遣する形で実施している。単位が出る関係で本学では教務課が所掌しているが、派遣学生の事前指導は学生就職センターの教官・相談員が担当している。

四 就職支援からキャリア形成支援へ

センターでは、これまで学生に対して就職活動に必要な情報の提供や就職相談など、就職活動のノウハウの提供を業務の中心として行ってきた。しかしながら、相変わらず厳しい就職戦線が続き、依然として次のような問題が指摘されてきた。

第一に、インターネットを利用した就職活動が主流になっていることに伴い、企業と学生の直接的結びつきが強化された半面、大学側が学生の就職活動の実態を把握しにくくなっているという側面がある。このため、就職指導のあり方の検討が必要になっている。

第二に、大学を卒業して入社後二、三年で会社を辞める者が三割になっている実情を考えると、学生が満足して就職できるような教育面及び就職支援面における指導の質的向上が課題になっている。

第三に、未就職のまま卒業した学生の就職のフォローアップが大学側に求められている。

これらの問題を解決するためには、低学年から「キャリアガイダンス」を行うとともに、個々の学生を支援する「キャリアアカウンセリング」を充実する必要がある。このため、学生個人が自己理解を深めるとともに、自分の人生設計をするのに必要な諸能力を身に付けることができるようなキャリア教育を実施することが不可欠と考える。センターでは、低学年からのキャリア形成支援を強化する視点から、次のような取り組みを開始している。

①一年次生への「キャリアガイダンス」の実施

平成一三年度から、各部局の新人生向けガイダンスや、一年次生を対象とした必修科目の「教養ゼミ」（大学に早く適合するために、大学での学び方や大学生活の送り方を指導）に講演依頼があれば積極的に応じ、将来の進路を早期に考え、目的意識を持って学生生活を過ごすことの重要性を訴える「キャリアガイダンス」を行っている。

② 二次生以上のキャリア教育の実施

二次生以上の学生には、前述のようにセンター専任教員がキャリア教育科目としての「職業選択と自己実現」の中で、「将来何をしたいのか（ビジョンを問う）、現在はどのような状況にあるのか（現状を理解し）、そのために何をすべきか」を自問自答させている。そこで培われた能力が企業の求める課題解決能力、つまり「あるべき姿（ビジョン）を描き、現状を把握し、そのズレを埋めるべく行動する能力」を身に付けることにつながることを理解させることに努めている。さらに、二次生以上の学生にはインターンシップに積極的に参加して、企業環境を理解するとともに、自分にあつた職業を考えるきっかけにするように指導している。

③ 就職指導研修会の開催

学年別にきめ細かく学生を指導するためには、どうしても学生の身近におられる多くの教官の協力が必要である。これまで部局によっては就職指導の研修会が開催されていたが、本年度は全部局の教職員を対象にして、特に教官の意識を高めるために、「大学教育に対する企業の期待と就職指導のあり方」というテーマのもとに就職指導研修会を開催する。

企業や社会が求めている人材を大学が育成するには、専門性を高める教育だけでなく、主体的に進路を選択することができると能力を学生が身に付けるように、大学教育の質的向上を目指す必要がある、そのためには大学が一丸となってキャリア教育に取り組む必要があると考える。

五 今後の課題

来年度から国立大学は法人化され、大学独自にできる事業運営が期待されているが、広島大学でも現在、平成二二年度を睨んだ中期目標・中期計画の策定作業が進行している。文部科学省から提示された中期目標・中期計画に記載すべき事項表の中でも、学生の生活支援や就職支援を充実するための具体的方策の検討が必要とされている。われわれは、センターがこれまで果たしてきた機能を充実するとともに、学生のキャリア形成を積極的に支援し、就職支援を拡充するために、現在のセンターを新たなセンター組織に改組することが是非とも必要と考える。したがって新たなセンターでは、今後次のような方策を具体化することが課題になる。

特集・学生のキャリア形成

①キャリア形成支援プログラムの作成

学生がキャリアプランを策定し、進路決定に役立てることを支援するために、分野別・学年別にきめの細かい「キャリア形成支援プログラム」を早期に作成する必要がある。

②キャリア形成支援委員の配置

今後、学生に職業を中心とした人生設計の仕方について指導を強化するためには、「キャリアアカウンセラー」または「キャリアコンサルタント」の採用が必要不可欠になると考える。また就職相談の内容も多様化してくることが予想され、「就職アドバイザー」（現在の相談員を名称変更）の増員も必要と考える。

③キャリア形成支援関連講義の再編成

学生が確固とした職業観を持ち、自信を持って進路・職業選択ができるようにするには、現在教養的教育科目（総合科目）として開講されている「職業選択と自己実現」、「ベンチャー論」、「ボランティア論」などや、各部局における専門科目の進路・職業選択関連講義を再編成して、学習支援体制を強化する必要があると考える。

④キャリア形成支援体制の確立

法人化後は大学間の競争が激化すると考えられ、大学の

生き残りのためにも学生支援の内容や質的レベルの一層の拡充が求められていると言えよう。したがって、キャリア教育的観点からの到達目標をいかに設定するかが問われることになるが、新たなセンターでは、各部局と連携して、社会や企業が求める人材を育成するための教育プログラムの開発を急ぎ、キャリア形成支援体制を早く確立する必要がある。

これらのキャリア形成支援のための方策が具体化すれば、学生が卒業後に社会の構成員としての自覚を促すような様々な訓練や情報を低学年から提供するサービスが行われるようになり、就職率も改善することが期待される。就職率が上がれば、受験生にも「入学したい大学」としてのブランドを確立することに役立つと考えられ、全学的な協力の下に学生のキャリア形成を支援する新たなセンター組織の早期実現を目指したいと考えている。